

2022年度指導方針とコーチングに関する施策

谷口 史雄

○自己紹介

○ヘッドコーチ補佐紹介

1. スクールの指導方針

- (1) 基本は全て「生徒の為に」。「何事も安全が最優先」
- (2) 生徒にラグビーを楽しんでもらう。試合に負ければ悔しがり、次にその反省点を活かせるように取り組みしてもらおう。
- (3) 基本的に勝つ事を目標とするが、単なる勝利至上主義(例:1軍、2軍等を分ける、固定した生徒しか試合に出さない、試合に勝つ為だけの絞ったスキルしか教えない等)ではなく、あくまで全員参加により全力を出し、仲間と助けあい、勝利を目指す。(毎年、高学年時に予定されているトーナメント方式によるカップ戦出場は、従来と同じく個別に関係するカテゴリのコーチ間によく協議した上で出場を決める)
- (4) ラグビーを大好きになってもらい「杉並でラグビーやって良かった、楽しかった。また中学で、そして高校でも続けたい」と思ってもらおう事を大きな目標とする。
- (5) 杉並らしさ(別添資料ご参照)を常に大事に意識しながら活動する。
- (6) ラグビーの5憲章「品位・情熱・結束・規律・尊重」を常に意識して具現化する。
- (7) コロナ禍の活動に関しては、スクールとしては基本的にこれまでと同じく活動は継続する。選手やコーチの発症時の対応は当面、前年度通りとする一方、世の中の動きに合わせた柔軟な対応を今後も検討する。

2. コーチングに関する目的、心得、施策(順不同)

- (1) 基礎体力、基礎プレーの習得
小学部では中学進学以降の色々な応用にも対応できる基礎体力、基礎プレーを身に付ける。(基礎体力、基礎プレーとはあくまで試合で活かせるもの。活動を通じ習得する)
- (2) ラグーマン、ラグールとしてラグビー精神に基づいた態度、姿勢を習得する
 - ① 元気な大きな声でグラウンド、コーチ、仲間、保護者、相手チーム等に挨拶する。
 - ② 時間を守る (キックオフは絶対に守らなければいけない。待ってこない)社会生活の基本である常識的なマナーを身に付ける
- (3) 活動において、コーチは自分の子供だけではなく担当するカテゴリの生徒全員に平等にコーチングする。活動中はコーチ⇄生徒(親⇄子供ではない)として接する。
- (4) 活動の始まりのコーチMTGは大切な事を話す機会、活動前の当日の活動の目

的や心合わせの他、グラウンド使用上のルール、トイレ、危険場所の説明等あり、極めて重要なので遅れない。コミュニケーションの点からも必須。

(5) コーチは愛する生徒達の活動の為、グラウンド内外問わずMTG等のコーチ間のコミュニケーションを大事にする。内容、状況によっては、とことん議論する。

(6) 生徒を注意する場合、状況を考え解決させることがコーチとして最優先することで、単なる頭ごなし*に注意することは厳禁

*例；なんでできないの、もうやめれば、バカ等々・・・

↓ここから下は、新たに今年度記載する項目です。

(7) 活動中は生徒の名前をしっかりと呼ぶ為に、ジャージの背中にガムテープで「名前」を書いて貼ってください。

(8) 今年度からミニラグビーを行う新3年生に関して、コンタクトプレーに慣れてもらう意味合いから、中学年カテゴリの活動の中で4月～7月の合宿手前までは、練習メニューにより、新4年生と分かれて練習を行う場合があります。

(9) 安全対策の観点から2点御願があります。

①お菓子に限らず食べ物を、グラウンドで大人から子供、また子供から子供に渡す事は、食物アレルギーの子供がいて事故に繋がる可能性があるため、止めます。

②持病等情報の共有化

・日頃の練習、試合等の活動に持病等の情報を共有化すべく、年度初めの時期でありますので各カテゴリマネージャーから継続登録して頂いた保護者に対して「アレルギー、ぜんそく等健康上申告すべき事、または集団行動をする上で気がかりな点があれば、教えてください」との依頼のメールをお送りいたします。もし保護者の方から返信があれば、ヒアリングを御願ひ致します。スクールとして個人情報には厳重に留意して保管の上、活動に活かしたいと思っています。新規入校の方に関しましては、申込書の文言を前記の文言に修正しました。

以上ですが、現在は生徒総数が170名(3月31日までは205名)になり、コーチも新しい方が増えています。校長交代、創立35周年の年でもあり、私は過渡期と捉えております。カテゴリにかかわらずコーチによるコミュニケーションの更なる強化を掲げます。

引き続き、ルール・レフリング担当、コーチング兼インテグリティ担当の活動として、協会主催のレフリー、コーチ資格の取得の推進、ブラッシュアップ、情報共有に努めます。以上ですが、今年度もどうぞ宜しく御願ひ致します。